

## 1. 平成4年度国際研究企画検討会の概要

熱帯農業研究の効果的な推進に資するため平成4年12月17日(木)、24日(木)及び平成5年1月8日(金)の3回に亘って本検討会を開催した。平成4年度には研究技術情報官が調査した、又は、調査予定の国々、インド、サウジアラビア、イエメン、オマーン、ソロモン諸島、バヌアツ、南アフリカ連邦、マダガスカル、モーリシャス、メキシコ、コスタリカ、エクアドル及びチリの13ヵ国について、①政治・経済・民生の動向、②農林業動向、③農林業技術動向、④国立農業研究機関(NARS)の現況、⑤国際協力の現況、⑥研究ニーズ、⑦共同研究へのアプローチ、⑧共同研究実施上の問題点と展望等の視点から検討を行った。その検討の結果を本研究資料として掲載し、要約を末尾に示した。検討の結果の概要は以下のとおりである。

- 1) 本年の調査において近い将来TARCが研究者を派遣することが可能な国としてインド、メキシコ、コスタリカ、エクアドル、チリの5カ国が挙げられた。
- 2) インドからは食品流通利用分野及びインド東部の稲作分野について共同研究の要請があった。メキシコについては半乾燥農林業に関して多くの研究課題を持つが、当面CIMMYTとの共同研究を中心として、更に情報の収集が必要である。コスタリカについては中米の代表的な農業生態系を持つ地域であり、今後ともCATIEを通して情報交換が必要である。エクアドルは赤道直下の農業生態系を持ち、稲作適地、畑作地、傾斜地が展開し、高冷地にはアンデス固有の塊根類の遺伝資源が豊富であり、NARSへのアプローチが可能である。チリは地理的に南北に長い国のため熱帯、亜熱帯、温帯、亜寒帯、高冷地等の農業生態系を持ち、各種の農業形態が存在し、広範な分野の共同研究がNARSで可能であり、今後、更に情報の収集が必要である。
- 3) 現地調査が未実施であるが、サウジアラビア、イエーメン、オマーンは熱帯乾燥、半乾燥農業生態系としてユニークな研究対象となり得る地域である。
- 4) 開発途上性と先進性の両面をもつ南アフリカ連邦は熱帯・亜熱帯の南部アフリカの農業生態系をもち、研究対象として今後の検討が必要な地域である。
- 5) ベトナムは今回の対象からははずれるが、生産重視の政策を取り、技術開発に力点をおいている。FAO/UNDP、CGIAR(国際農業研究協議グループ)の研究機関との共同研究が実施されているが、TARCに対して具体的な研究テーマに基づく強い要請があることを付記する。
- 6) TARCは現在バイラテラルなNARS及びCGIAR研究機関との共同研究のみを行っているが、トリパルタイト又はマルチラテラルな共同研究の要請が最近増えてきている。今後この問題に関して調査・検討を続ける必要がある。
- 7) 熱帯農林業研究における戦略的重点課題の素案が座長より提起されたが、今後の検討課題とした。
- 8) 平成5年度以降には、新組織が新たに研究対象とする地域、すなわち東アジア北部、中央アジア及びラテンアメリカ南部等の地域について調査研究等を行う。また、アフリカ、中南米地域については特定テーマに関する調査を行う予定である。